

# 十勝川中流部川づくりワークショップ(H22.7-H24.3) 川づくり(案)

撮影:平成23年10月  
作成:平成25年3月9日 第2回十勝川中流部川づくり報告会

**合意事項** [音更川合流点より上流]

- 左岸側の樹林を伐採し草原環境へ
- 連続性確保のため河岸の樹木幅10m程度を保全
- 中洲や河道内の河原は現状を維持し、掘削は行わない

KP 57.4 左岸河畔林を伐採  
河岸側の樹木は保全(10m程度)  
帯広市 音更町

**合意事項** [音更川合流点下流①]

- 左岸側(音更側)の樹林を伐採し、草原環境へ(河岸側10m程度の樹木及びケショウヤナギ林を含む大型樹林は保全)
- 右岸側(帯広側)の河岸を平水位で掘削(幅30~40m程度)

ケショウヤナギを含む大型樹林を保全(幅30m程度)

KP 55.2 樹木を伐採  
帯広市側を平水位で掘削(幅30~40m程度)  
帯広市 音更町

**合意事項** [相生中島上流左岸]

- 左岸側(音更側)の河岸を、樹木の連続性に配慮しつつ平水位で掘削。
- 樹林の分断される箇所では、連続性を確保するため樹林再生の試行的な取り組みを実施する。

【施工直後】 → 【施工後約10年のイメージ】

野生動物の移動に配慮し樹林の連続性を確保  
表土を除去し、樹木種子の活着を促す  
樹林の再生  
音更側を掘削 現況の草原環境を保全  
帯広市 音更町

**合意事項** [相生中島より下流]

- 中洲については、樹林化している部分(中洲の半分程度)を平水位で掘削し、河原環境の形成により再樹林化を防止する。
- 右岸側にショウドウツバメの集団営巣地があるため、左岸側を平水位で掘削する。

左岸と中洲を平水位で掘削  
磯河原化  
KP 50.6  
左岸を平水位で掘削  
帯広市 音更町



**合意事項** [音更川合流点より下流②]

- 中洲を、左岸側半分程度を残して平水位で掘削。枝流は保全する。
- 併せて、河原環境の形成を図るとともに再樹林化を抑制する。

KP 54.4 枝流を保全  
右岸を平水位で掘削 中洲を平水位で掘削  
帯広市 音更町

**合意事項** [相生中島上流右岸]

- 右岸の河岸側の樹林を幅50mで保全し、その背後地の樹林を伐採。
- 再樹林化を防止するために、掘削して湿地環境を形成する。

KP 53.6 河岸側を50m幅で保全  
樹木伐採 樹林の連続性を確保  
湿地環境とし再樹林化を防止 音更側を掘削  
帯広市 音更町

**合意事項** [メン川合流点下流]

- メン川と十勝川の合流部は、サケ稚魚の速やかな降下を考慮し、平水位で掘削するとともに、メン川沿いの樹木は保全する。
- 平均年最大水位程度で右岸高水敷を掘削するとともに、再樹林化を防止するため、地域との調整を図った上で、凹凸を付けて多様な湿地を含む環境をつくる
- 施工中の十勝川温泉側からの景観を考慮し、中洲の樹林の一部を10m程度の幅で残しながら施工する。

**合意事項** [途別川合流点下流]

- 河床部を掘削する。
- 右岸側の高水敷については、現況の水域が極力残されるよう、水域周辺の樹木の内、川側を全て保全、堤防側を幅10mで保全し、その他の部分を平均年最大水位程度で掘削し、草原環境を創出する。

川側河畔林は全て保全堤防側は約10m幅で保全  
平均年最大水位程度で掘削し、草原環境を創出  
KP 46.2  
音更町 帯広市 幕別町

KP 47.8 草原環境とする  
平均年最大水位 平水位  
音更町 幕別町

**合意事項** [十勝川温泉より下流]

- 樹林を伐採後、掘削して浅場環境を形成する。
- 十勝エコロジーパーク下流の樹林の一部を疎林化する。

※具体的な実施については、今後、十勝エコロジーパークや北海道と調整

河畔林伐採  
浅場環境の形成 河床及び右岸高水敷掘削  
音更町 幕別町

